

十周年記念・スイストレッキング

日 時：7月2日（金）～7月12日（月）

参 加 者：L：舩賀 井上・大谷・尾越・金島・澤田(律)
待場・森永・塩津



★ 思い出いっぱい

去年の「初めての山歩き教室」で、会長から「来年は高砂山遊会 10 周年記念でスイストレッキングの予定がある」と聞いて、迷わず参加を決めていた。新米の私が先輩の力添えを頂き念願のスイストレッキングを満喫することができた。

◎ 目に飛び込んでくる大自然は身も心も震え上がる素晴らしい光景、今ここにいる幸せをかみしめた！！ ◎ ユングフラウ 3, 4 5 4 m の高みまで走る登山列車、世界一の急勾配を走る S L、3 0 分間もの長い

井上

ロープウェイなどなど、九州より小さいスイスのパワーに脱帽！！ ◎ 緑あふれる牧草と可憐な花々の咲く丘を走る電気自動車、カウベルの音が響き、素朴な木造りの家屋、宿舎でのゴミの分別も、自然環境を大切に

する心に癒された！！ ◎ 宿舎の共同自炊生活も忘れられない思い出。おいしかったソーメンや巻き寿司の味が懐かしい？？

★ スイスで学んだこと

何となく昔から憧れていた国スイス、そのアルプスに一週間滞在して感じた事。

トレッキングのコースは、スタート地点や分岐での標識(目的地と所要時間、現在地の標高)が、しっかり記されており、道が外れていないか確認ができ安心して歩ける。

ゴミは捨てる場所が何ヶ所かあって、ビン・缶・紙など分別して入れる。ビンは深い入れ物に落ちると中で粉々に割れるようになっている。缶は入口が平べったい小さな穴になっていて、ペタンコにしないと入らない仕組みになっている。

街には小さなゴミ箱が何ヶ所もあり、電車に乗っても窓の下に小さなゴミ入れがついている。街中、道路、ハイキングコース、山にも、ゴミ一つ落ちていない。



大谷

公共のトイレも掃除が行き届いていて何処もきれい。トイレットペーパーは、

私の家で使用している物よりも上質な紙が備えてあるのに、びっくりした。

流す水も圧力を利用して、飛行機内のトイレの様に驚くほど一気に流れるのは、水の量が少なくて済むと言う事らしい。

道路を渡るのに横断歩道で待つて

いると信号が無くても通っている車は、必ず止まって人が渡るのを待ってくれる。

レールのある公共の電車さえも止まってくれるのには驚いた。そのかわり横断歩道以外を渡っていると厳しく注意された。プラットホームの階段はスロープ状になっていて、車椅子の人もスムーズに行ける様になっている。列車に乗る時も

踏み台が出るようになっていて乗りやすい。人優先、人に優しい国と感じた。
日本も車優先でなく、もう少し人優先

★ いっぱい笑った 11 日間

Hello と *Please* と *Thank you* に助けられた毎日でした。

Hello で、お互いの目が合い、笑いかけてくれて気持ちが通じます。

Please で、こちらの話を（訳のわからない英語でも）真剣に聞いてくれます。

★ 忘れられない感動

マッターホルンを仰ぎ見たときの空は、日本の空色とは全く違います。青？ 紺碧？ 真っ青？ 筆舌に尽くせない青の思い出は、今も私の心を完全に占拠しています。その空を突き上げるように聳え立つ白い雪を冠したマッターホルン・・・裾野を風に乗ってゆうゆう飛ぶパラグライダー

★ トレッキング 第 1 日目

グリンデルワルトの貸別荘からバスで約 20 分、ヴェッターホルンの麓にあるグローセ・シャイデック。霧と時おり降る小雨にカッパを着て準備する。歩き始めと同時に高山植物の可憐な花々、天気そっちのけでパチパチと写真撮影に熱中する。皆から離れないよう用心し追いつける程度の距離を保ちつつ撮影に専念した。

ここは標高 1,961 m、歩き始めると同時に心臓の動悸がしんどい。ひょっとして高山病にかかるかも知れないと、準備していた「救心」を飲み備える。フィルスト 2,171 m ～バッハアルプゼー 2,265 m

★ スイスは良い国

トレッキングの準備にあたり、海外との取継ぎ（空港や貸別荘）手配は松下さん、コースや乗り物は尾越さんが手配、そして、1 月～6 月に 10 回の会合を持ち準備完了、7 月 2 日関空 11 時フライト、15 時間後

の方向に行かなければと思った。

今回何よりも全行程、晴天に恵まれ楽しく、無事に帰れたことに感謝。

尾越

Thank you, Bye で、気持ちよく別れ・・・挨拶と笑顔は世界中どこでも大事ですね。

言い尽くせないほどお世話になったメンバーと、気持ちよく送り迎えてくれた家族や職場の方々に感謝します。

金島

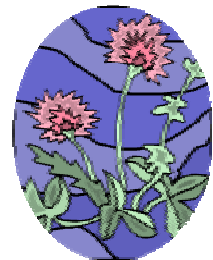
たちの色とりどりの眺め・・・私たちハイカーの足元を走り去るマーモットの姿・・・笑顔で交わしたスイスの方たちとの挨拶などなど。

65 歳にして体験したスイス・イン・10 の空気と香りを、限りなく懐かしく思い出し、反芻しています。

澤田

の湖 ～ ブスアルプ 1,792 m と、緩やかなアップダウンは少々きつかったけれど、周辺の花々や雪渓を抱いた山々の絶景は疲れを忘れさせてくれる。

朝出発時の天気は曇りや小雨と心配したがブスアルプに着く頃には、まぶしい位に晴れてきた。ユングフラウ・アイガー・メンヒの大パノラマは本当に素晴らしく感激いっぱいのスイス第一日目トレッキングを体験できた。



舛賀

チューリヒに。

スイスは良い国だ。① 和やかな国民
② 温暖化対策の徹底・・・電気自動車・信号機が無い・自販機も無い。クーラーが無い。
（公共の場や乗物や家庭）

③ 優しい環境・・・家庭のベランダは花、洗濯物は外に干してない。

グリンドルワルトから始まるトレッキングは、アイガー・メンヒ・ユングフラウの名峰三山を見ながら歩く。そしてツェルマットでは絵葉書のような美しい風景。

マッターホルンでは夢の中にいるような

★ 初めての海外を楽しむ

長年の夢が叶ったスイスの旅。アルプスがこんなにも雄大でこれほどまでに美しいとは思っていなかった。出発前には、海外旅行の経験の無い10日間という日数は、かなり不安であった。

氷河・残雪・鋭く天に突き刺さった峰々、これらを包むかのように美しい町グリンドルワルトの草原と可愛い家々、アイガー・メンヒ・ユングフラウの三名峰山を見ながら、黄・ピンク・紫・白・青など、小さい花ながら見事な色、エーデルワイスとの出会いにも感動した。

高原を渡る心地よい風・澄んだ空気・素晴らしい展望での昼食、お茶タイムも十分楽しむことが出来た。

ツェルマットの2日間は天気恵まれ、聳え立つ雄大なマッターホルンを眺めながらのトレッキングは最高、本などで見ていたとおりの絶景だった。

★ 環境税について

「美しい村・美しい谷」と小説で紹介されていた通り、村にはゴミ一つなく徹底されたゴミの分別が行われ牧草もきれいに刈り込まれていた。住居の窓辺に花が調和良く飾られ

★ 夢のような世界

絶対無理と考えていた海外旅行・・・姉の強力な後押しで決断した憧れのスイス・トレッキング！本当に実現するなんて・・・貸し別荘の窓からはそびえたつアイガーが目前に迫り、少し電車に乗れば一面にのどか

素晴らしい景色のなか歩く。そして貸別荘では女性方が自慢の腕をふるって美味しい料理。また、ハイキングコース及び各乗り物もトラブルなく計画通り進み、各自役割を果たした。よき天候にも恵まれ何事もなく、思い出に残る楽しい海外旅行ができた。

待場

リッフェル湖に映った逆さマッターホルン、朝焼けのマッターホルンも素晴らしい。



街全体が世界遺産になっているベルン旧市街地・連邦議事堂・壮大な大聖堂・ブルエンツ湖の遊覧・ゆっくり上る登山鉄道・山野の牛や羊の群れ、どれ一つとっても絵になる国スイスだった。

今でも行ったのが夢だったのではないかなと思うくらい、初めての海外を楽しむことが出来た。

森永

ている。

旅行者からも環境税を徴収しているとか・・・美しい村を維持するためのシステムだ。税の使い方について、日本も見習うべきと思った。

塩津

な風景が広がり、山々は雄大で、圧倒されるような力強さがあり、夢のような世界であった。クライマックスは、やはり、雲ひとつなく湖面に映る逆さマッターホルン！！

その美しさに感動！思わず涙ぐみ、主人と神様そしてメンバーに感謝しました。

会員だより

ホタルの時期という編集委員だよりを読み、久しぶりに見に行こうと6月16日仲間7人で出かけました。子供の頃は近くの小川にいっぱいいたので、わざわざ遠方へ見に行くことはなかったのになあと思いつつ、行先は県下でも有数のホタル観賞地と言われる多可町の八千代区俵田 フロイデン八千代 野間川沿いは、

増田

かなり長い区間にわたって観賞用に堤防(遊歩道)が整備されており、臨時駐車場も設置されていて、見頃の午後8時～9時はかなりの観光客でにぎわった。ホタルが乱舞するのを見ながら、何か見失っていたものを見つけたいようないい気分になりました。

北村

今春のオープンガーデン(O/G)開催にあたり、大勢の方のお越しを頂きありがとうございました。

有志でO/Gを始めて六年。今年の四月からは“ハートフルガーデン中播磨”(NPO)としてリニューアルし、会員は80名を超えるまでに。学校、病院、福祉施設での花壇づくりをはじめ、今年は“銀の馬車道”(生野銀山跡～飾磨港)沿道の花壇整備を予定している。

しかし、その実態は、法人としての組織・資金運営、地域活動の普及・推進のうえで、さまざまな課題がある。“個々のO/G”から“花と緑のまちづくり(市民活動)”へ、

どのようにシフトアップしていくか。参画と協働の意識が必要なことはわかっているが。

兵庫県では、“花いっぱい運動”を展開し、各県民局ごとに推進員を配置し啓発に努めてはいるが、地域によって温度差、格差もあり一般県民に広く周知、定着されているとは思えない。

こうしたこともあって、今年四月から“県立淡路景観園芸学校”に通っている。

地域で活動していくために必要な花と緑のまちづくりに関する基礎的な知識・技術からリーダーシップ、ワークシップ、コミュニティ形成まで含めた幅広い内容である。

▶ 県立淡路景観園芸学校に興味のある方は下記のホームページをご覧ください。

<http://www.awaji.ac.jp>